

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	達成度	次年度の課題と改善方向	
		評価指標	取組項目(○)と内容(・)			
1 教育内容の充実	<p>(現状)</p> <p>○H31(R1)の学生に対する授業評価アンケートで、講義が分かりやすいと回答している学生は58.5%であった。また、農業技術検定3級合格率は66.7%、2級合格率は5.3%であった。</p> <p>○非農家や普通科高校からの学生も増える中、きめ細やかな対応が求められているが、人事異動等により経験豊富な教員も少なく、対応に苦慮している。</p> <p>○ICTやドローン等を活用した新技術やGAPの取組が現場で普及しつつある。</p> <p>○ハード面での教育環境の整備も必要だが、施設、設備、備品の多くが老朽化しているにもかかわらず、更新や修繕が進んでいない。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策による休校(4/9～5/31)により、講義・実習等に遅れが生じている。</p> <p>○令和3年4月開設予定の日本初の「いちご学科」創設に向け、準備を進めている。</p> <p>(課題)</p> <p>●時代の変化に合わせた学生へのきめ細やかな対応と卒業後に円滑な就農ができるよう、基本知識・技術の習得はもろろん、先進技術の習得、資格取得等が必要である。</p> <p>●教職員の専門性や指導力の向上が必要である。</p> <p>●ICTやロボット技術、ドローン活用等スマート農業を取り入れた実習が求められている。</p> <p>●施設、設備、備品の更新や修繕を着実に実施するため、計画的かつ効果的な予算の確保が必要である。</p> <p>●学生に休校期間中の講義や実習等を履修させるため、オンライン授業やカリキュラムの組替え等の対応が必要である。</p> <p>●「いちご学科」創設に向け、入試やカリキュラム策定等学生募集に係る事務や広報PR、施設整備等を着実に進める必要がある。</p>	<p>分かりやすい講義(アンケート結果)</p> <p>大体分かる</p> <p>80%</p> <p>農業技術検定合格率</p> <p>3級 100%</p> <p>2級 50%以上</p> <p>スマート農業に接する学生の割合</p> <p>100%</p>	<p>(1)教育スキルの向上</p> <p>○教員研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任教職員を対象として、教科目の履修等に係る説明会を実施する。(4月) ・新任教職員を対象として、授業に対する理解度向上のため授業見学を実施する。(8月) <p>・「授業の持ち方、指導方法」等に関する意見交換会を開催する。(8月)</p> <p>○指導者研修会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業者研修教育施設指導職員新任者研修(9月) ・全国農業大学校教育研修会・指導力強化発展研修会(9月) ・関東ブロック業教育施設協議会担当者研修会に参加する。(未定) ・研修終了後、伝達講習会を実施する。 ・農業高校農業部会が開催する勉強会について、内容に応じて適宜出席する。 <p>○授業評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解度を向上させるため、学生と対話しながら理解度を確認しつつ、よりわかりやすい講義に努める。 ・より質の高い教育を行うため、全学生を対象に、前期、後期授業の授業評価アンケートを実施する。(7月、2月) ・併せて、休校に伴い実施したオンライン授業についてもアンケートを実施する。 ・アンケート結果から、授業方法等の改善について、分析・検討する。 			
				<p>(2)専攻実習等の充実</p> <p>①基本技術の徹底指導</p> <p>○実践教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に当たっては、学生が主体的に動けるように指導するとともに、講義の内容も踏まえて事前に目的、方法、留意点等を十分説明する。 ・学生の実践力がより高まるよう機械操作の機械を増やす。 <ul style="list-style-type: none"> ・座学の教科書では押さえきれない実習技術(作業手順や注意点等)に関する指導資料を作成し、職員が統一意識の元、学生指導にあたる。また、理解度の低い学生を対象とした補習を行い、基本技術を徹底する。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業(総合基礎講座Ⅱ)において、農業技術検定の受験対策、指導を強化する。 		
				<p>②先進技術の導入</p> <p>○G.A.P.に係る教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果樹園をGAPモデル農場と位置づけ、GLOBALG.A.P.基準の管理を維持し、「なし」の継続認証を目指す。 ・校内における水稲の県GAP第三者認証の継続認証を目指すとともに、いちご、トマトで登録基準に達するよう調製室の改善に取り組む。 ・GAP概論は畜産においてはHACCP(ハザップ)の視点を加えた内容を追加する。 		

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	達成度	次年度の課題と改善方向
		評価指標	取組項目(○)と内容(・)		
			<p>○連携協定等による教育研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高性能機械化体系を習得するため、大学校の機械体系技術の他、全農等と連携しICTやロボット技術などの先端技術を活用したスマート農業教育を充実させる。 <p>・販売許可施設が整備されている三友学園等と連携し、農大産農産物を活用した農産加工品の製造方法・製造施設について学習を充実させる。</p> <p>○ICT技術・新品種等の導入(拡充または理解促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内に整備されているICT技術については、講義・実習においてより理解度が深まるよう取り組むとともに、校外学習を通して関係機関や民間企業等が主催するフォーラムや現地検討会へ参加し最新技術を学習する。 <p>○土地利用型園芸技術の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端技術を用いた園芸の育苗施設(次世代型園芸人材育成施設)及びたまねぎ・ねぎの機械化一貫体系を有効に活用し、育苗からほ場管理、収穫・調整まで、最先端の露地野菜生産技術を習得させる。 		
			<p>③経営管理技術の習得</p> <p>○実践的経営管理学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の課題研究に基づいて、現地における優れた経営管理を学ぶため、先進事例調査など校外学習を実施する。(5月～2月) ・県内先進経営者を講師に迎え、実践的な農業経営に関する授業(経営特別講座)を実施する。 		
			<p>(3)学生の自主性・社会性の向上</p> <p>○販売学習機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等への参加を主軸に行い、消費者との交流により、品質や価格設定など販売学習の理解を促進させる。 <p>○社会生活講座の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的経営者や第一線で活躍する方の話を聞くことにより、社会人として必要な知識を学ばせる。 		

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	達成度	次年度の課題と改善方向
		評価指標	取組項目(○)と内容(・)		
			<p>(4)校内環境の整備・リスク管理の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症感染防止対策の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・農業大学校における対策マニュアルを作成し、検温等の健康観察、マスクの着用、こまめな手洗い、校内の消毒、換気等3密対策など感染防止対策を徹底して行っていく。 ○継続した環境美化の励行 <ul style="list-style-type: none"> ・職員と学生による校内一斉清掃をイベント開催時及び月1回実施するほか、日常清掃についても日頃からこまめな実施を心掛けていく。 ○受動喫煙防止対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・法改正により昨年7月から原則敷地内禁煙となっていることから、灰皿の撤去等、敷地内全面禁煙を徹底していく。 ○施設・教育現場でのリスク対応総点検の継続実施 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の校内におけるヒヤリハット事例を安全衛生マニュアルに登載するとともに、引き続き事例を収集し、その改善策を共有していく。 ・新型コロナウイルス感染症対策のマスク着用により、例年以上に熱中症誘発のおそれがあるため、マニュアルによる屋外実習時等の取扱いや救急出動要請等について、全体で情報を共有し、注意喚起ならびに安全管理の徹底を図る。 ○学校施設・設備の維持管理 <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の長寿命化を図るため、定期点検の実施や見回り等により、施設の状態や使用状況を十分に把握し、計画的な予算の確保に努める。 大規模改修については、緊急度や優先度の高い順に予算要求を行い、できるだけ早期の対応を図るとともに、小規模修繕については他部局の予算も活用しながら、速やかに対応していく。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報の適正管理 <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報を扱うことについて、危機管理意識を高め、事務の誤りが起きないように、必ず複数の職員でダブルチェックを行う等、職員の意識向上と事務管理の徹底を図る。 <p>(5)新型コロナウイルス感染症対策の休校に伴う補習等実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用したオンライン授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・休講となった講義について、YouTubeを活用したオンライン授業を実施する。(5～6月) ・今後のオンライン授業の対応について、検討する。(7月) ○授業の補充 <ul style="list-style-type: none"> ・休講となった実習、実験・演習等については、教育計画書を変更して長期休暇等に補充する。(7～9月) <p>(6)「いちご学科」創設に向けた準備の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○規則改正とカリキュラムの策定 <ul style="list-style-type: none"> ・いちご経営者の確保に向けた教育研修体制を確保するため規則改正を行い、カリキュラムを策定する。 ○効果的な広報及び学生募集 <ul style="list-style-type: none"> ・県及び農業内外から広く希望者を募るため、対象を絞った効果的な広報と学生募集を行う。 		